

危険な生き物

1 校庭や学校周辺の危険な動物

(1) スズメバチ類

スズメバチ、オオスズメバチ、コガタスズメバチ、キイロスズメバチ、ヒメスズメバチなどがよく見かけられるスズメバチである。種によって異なるが、樹木の洞、土の中、家の軒下、屋根裏、生け垣などに巣を作る。餌が少なくなる初秋に最も攻撃的になる。黒い動くもの（頭）、香のあるものによく反応する。

巣のある場所の近くに近寄らないこと。単独で飛来した場合は、刺激しなければほとんど襲ってくることはないので、じっとして飛び去るのを待つ。

刺された場合、すぐに刺された部分から毒液をしぼり出して、ハンカチなどを水で濡らして刺された所を押さえ、抗ヒスタミン系のステロイド軟膏を塗る。アンモニアは効果がない。アレルギー体質の人や複数回刺された場合には、アナフィラキシーショック（アレルギー性ショック症状）の危険がある。直ちに病院へ行くこと。



オオスズメバチ

(2) ニホンマムシとヤマカガシ

マムシは、一般に森、藪、川沿いや沢沿いの林といったカエルなど餌になる生き物がいる場所を好む。ヤマカガシは水田や池の周辺などでも見かけられる。

踏んだり、ついたりしなければ攻撃してくることはほとんどないが、咬まれたら、すぐに血清のある病院へ行き治療を受けなければならない。マムシとヤマカガシは血清が違うので、捕獲し、どんなへびか確認する必要がある。

(3) イラガ

サクラなどの樹木で、卵に模様をつけたようなイラガのまゆをよく見かける。イラガの幼虫の背中には、毒の棘がついている突起がいくつも出ている。この棘に触れると激しい痛みがある。イラガの写真の出典「理科ねっとわーく」

(4) その他

ハンミョウやハネカクシ、ゴミムシなど、動物の死骸などに集まる甲虫の中に、毒液をもつものがあるので注意が必要。全てのガに毒があると思われているが、ドクガ、カレハガの仲間だけである。ドクガの仲間は、幼虫が毒針毛をもつ。卵塊、繭、成虫にも毒針毛が付いている。さわると皮膚が炎症することがある。

2 校庭や学校周辺の危険な植物(食べた場合)

植物名	生態の特徴	主な有毒成分
アセビ	校庭の常緑低木	有毒成分アセボドキシンは殺虫剤になる
キョウチクトウ	校庭の常緑低木	強心作用を起こすオレアンドリンを含む
イヌホウズキ	校庭の雑草	アセビと同じアルカロイドを含む
ヨウシュヤマゴボウ	校庭の雑草	神経麻痺を起こすフィトラッカトキシンを含む
ヒガンバナ	身近な野草	鱗茎にアルカロイドを含む有毒植物
ドクウツギ	川原や海岸の落葉低木	コリアミルチンを含み、呼吸困難に陥る
スイセン	花壇の園芸用植栽	アルカロイドを含む有毒植物
シキミ	寺などの植栽の常緑樹	アニサチンを含み、劇物に指定されている
ドクゼリ	水辺に群生する多年草	神経毒のシクトキシンを含む

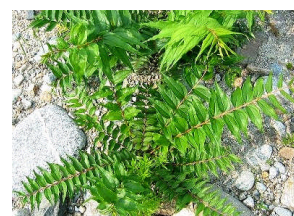
※ 学校菜園で栽培しているジャガイモの緑色の皮や芽は、有毒成分のソラニンを含む。調理する時に、皮や芽をしっかりと取り除く必要がある。



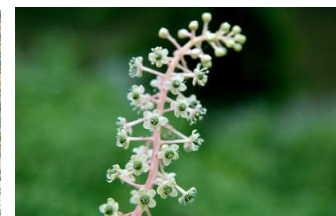
キョウチクトウ



アセビ(馬酔木)



ドクウツギ



ヨウシュヤマゴボウ

※ 危険な生き物についての詳細な情報は下のサイトが参考になります。

佐賀県教育センター 授業に役立つ研究「佐賀県内の注意を要する主な生物」のページへ